歴史寫眞第參百參拾貳號
昭和十五年十二月二十五日印刷納本大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和十六年一月一日發行（每月一回一日發行）

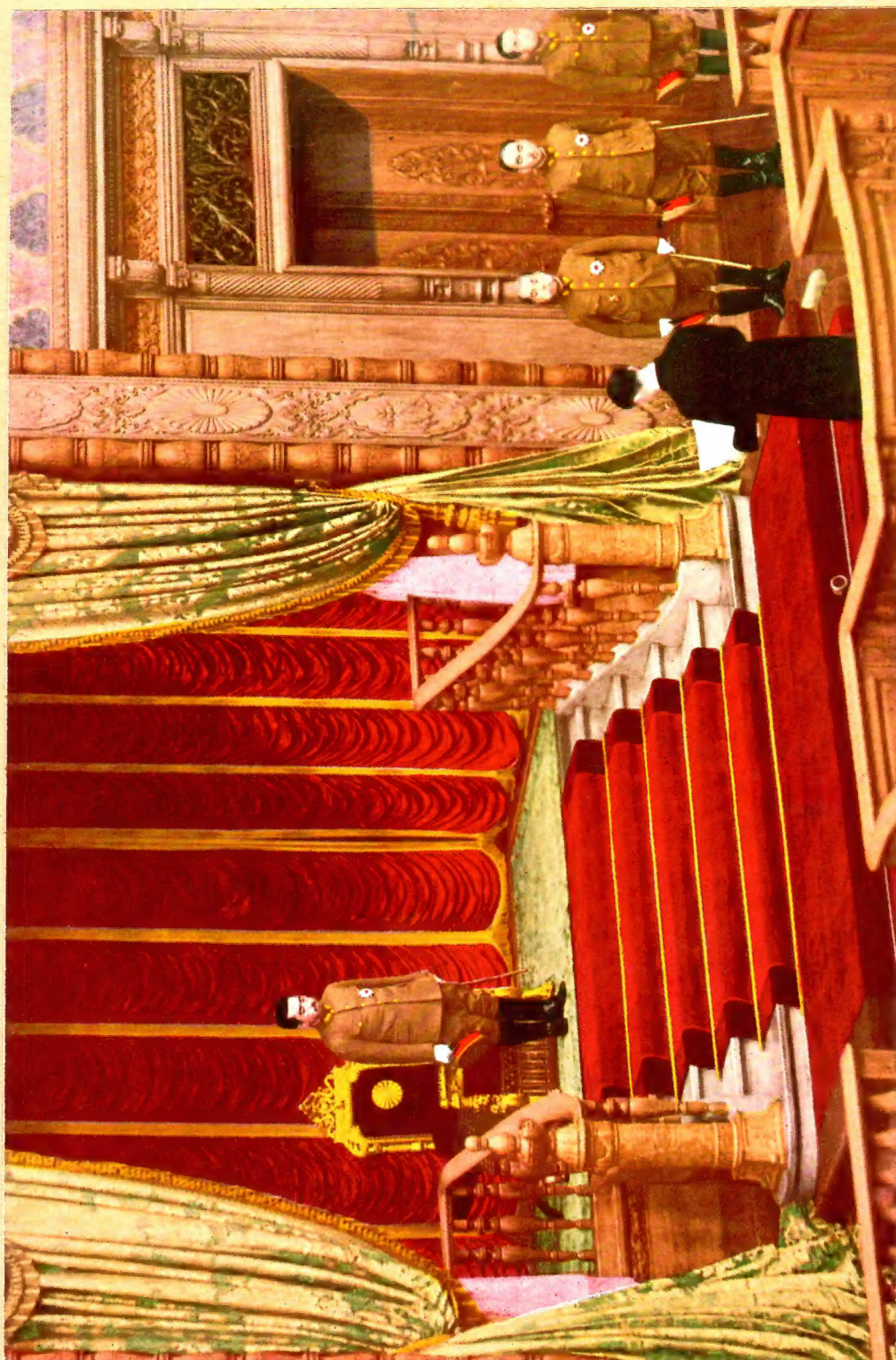
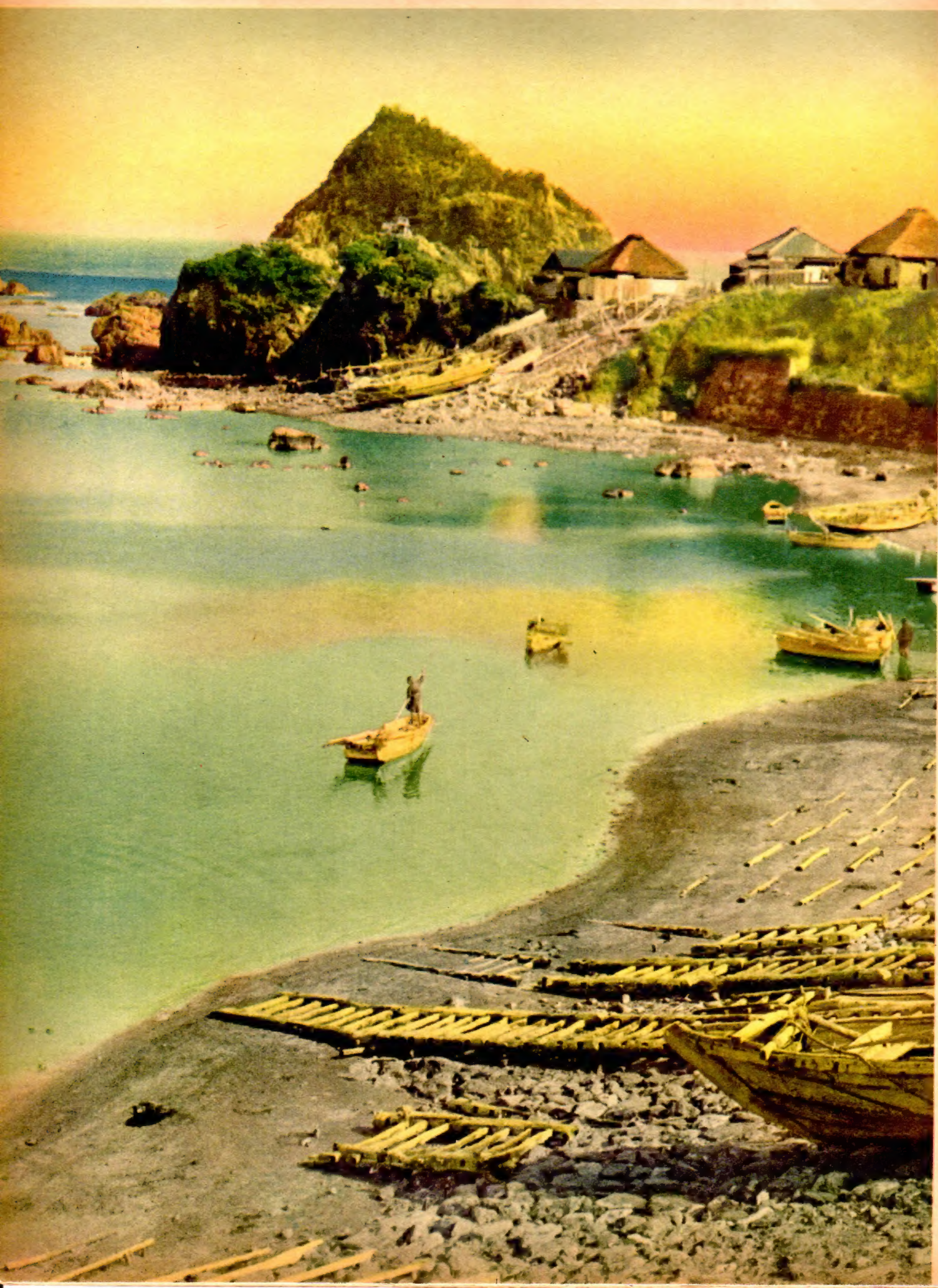
大東亞共榮圏の上に
多くの輝かしき希望を抱き
つつ此の新しき年を迎へて
各位の御健祥を祝福し奉る

昭和十六年元旦

歴史寫眞會本部一同
全國支局支部員一同

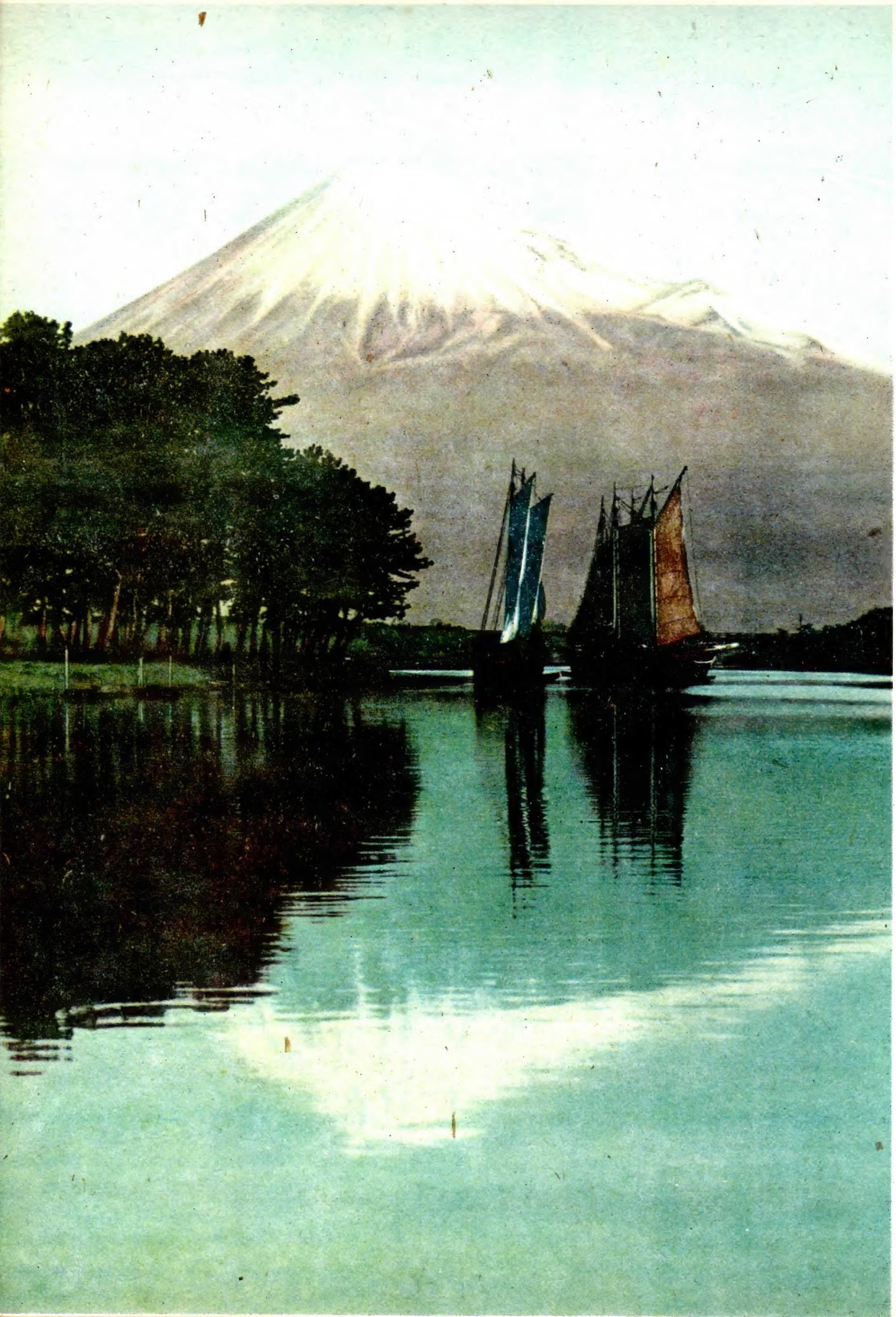
紀元二千六百年奉祝美術展覧會出品 〝日出處日本〟（横山大觀畫伯筆）

帝國議會開設滿五十年記念式典

(御前に於て恭しく式辭を朗讀する近衛首相)

新年歌御會勅題『漁村曙』に因みて（山田應水作）

◆◆◆萬代不磨の靈峰、富士十二景◆◆◆

（其一）田子の浦の絶景

百人一首に名も高い山邊赤人の歌一首、『田子の浦に打ちいでて見れば白砂の富士の高れに雪はふりつつ』その田子の浦は靜岡縣富士郡富士川口東方一帶の海濱の稱で、南に駿河灣を控へ、白砂青松相つらなり、北には富嶽の靈容を仰ぎ、南西指呼の間に三保の松原を望む。昔から東海屈指の勝地として世に謳はれ、此處より見たる芙蓉峰の眺めは、特に優麗無比と謂はれてゐる。（黑川翠山寫）

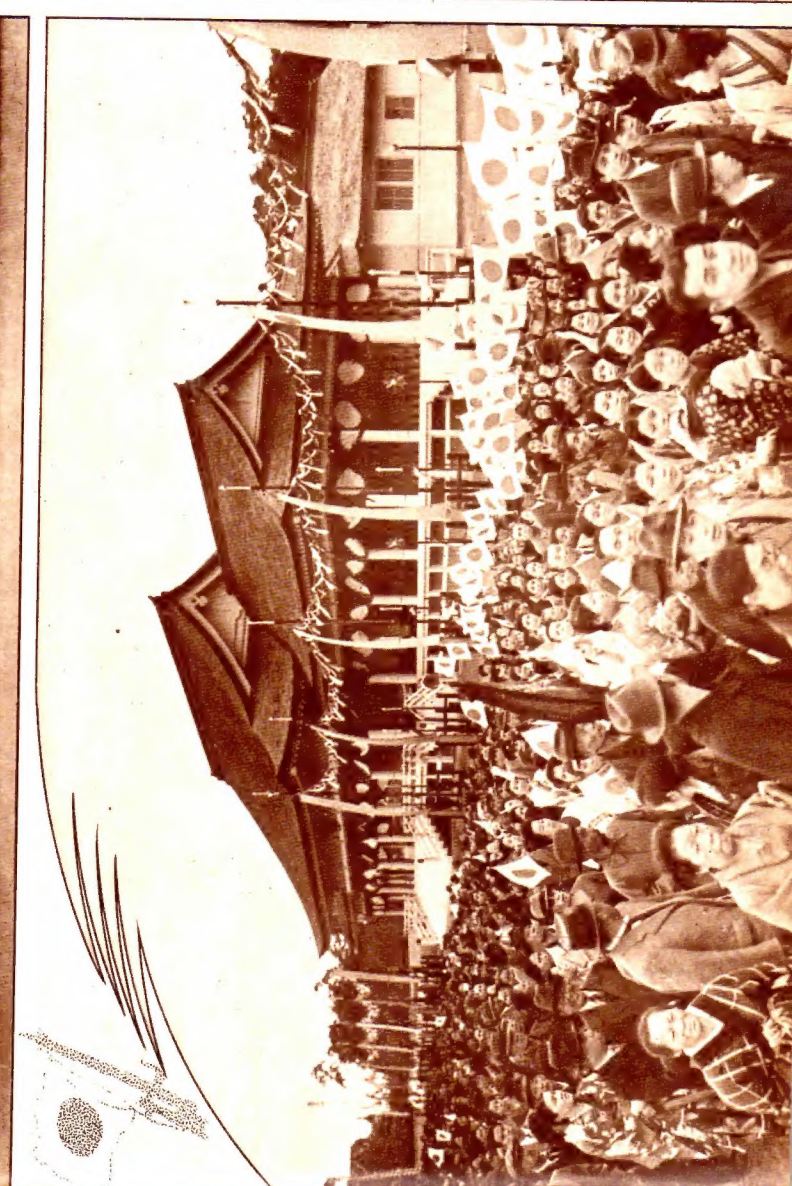
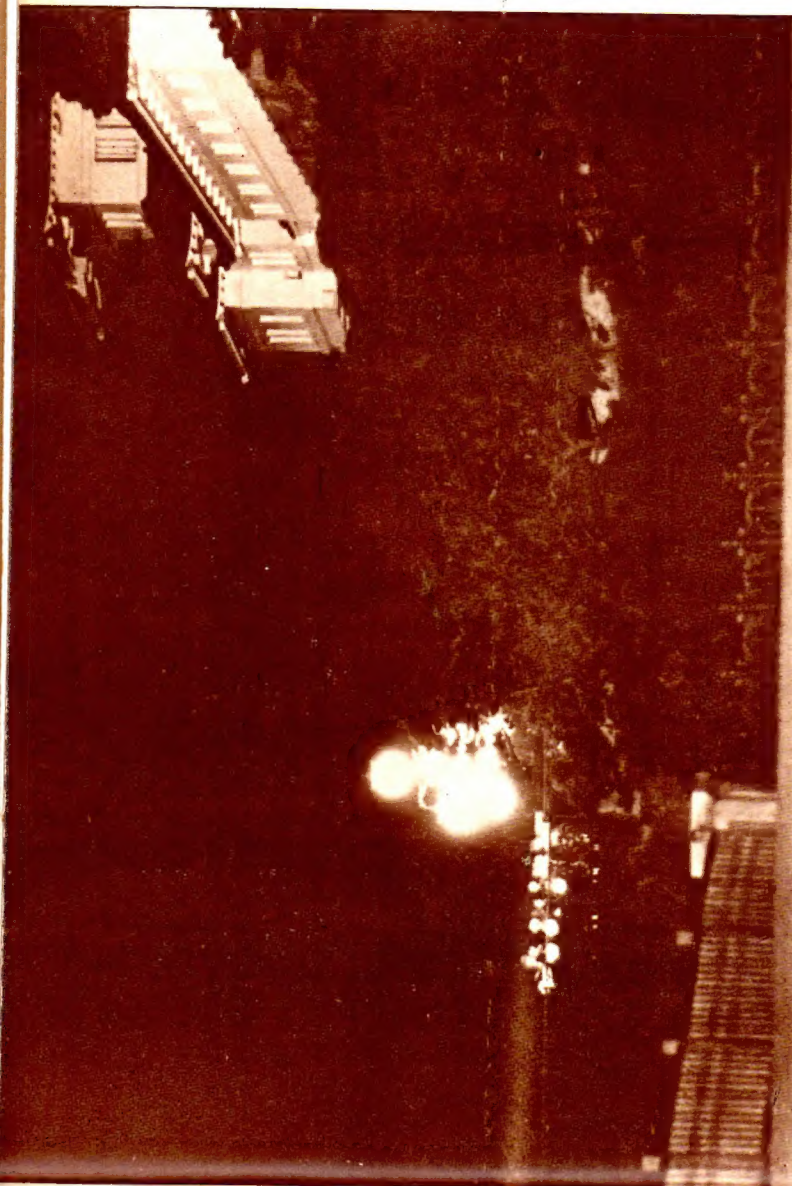
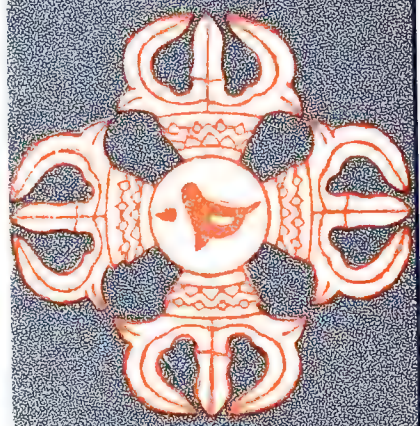
季節に因む風景寫眞十二選 ◆◆◆ 河口湖の雪（一月）

近年頓に有名になつた『富士五湖めぐり』は、靈峰富士の裏裾野に散在する山中、河口、西湖、精進、本栖の五湖を廻遊するもので、是等の湖は孰れも古代富士川の流れが、富士熔岩流の爲めに堰止められ或は遮斷されて出來上つたのである。河口湖は吉田町の西北一里の地點に在り、沓形に水を湛へてその周圍四里、五湖中の最大湖である。北に御坂山聳え、三つ峠その東に連り、十二ヶ岳西に戈をつらねて三方より湖面を壓し、南方ひとり豁然とひらけて、八朶の芙蓉峰はましぐらに影を湖面に投げかけてゐる。寫眞は、湖畔鳥井峠より濱村、鵜の島、船津村等を一望に疊める大觀で、斑らに降りつむ雪の景色は又一段とすぐれた眺めである。影うつる富士の高根にうづもれて殘る水なき河口の湖（清水濱臣）

◆◆◆日本城郭総覧◆◆◆ （其四十九） 金華山岐阜城

岐阜城は木曾、長良の二大河に圍まれ難攻不落の要害を謳はれた岐阜市金華山上に在る舊城で、遠く鎌倉の初期、二階堂行政に依て築城されその子孫光資が稲葉と改姓するに及んで今尚又の名を稲葉城とも呼ぶに至つた。天文八年、美濃の英傑齋藤秀龍入城して大修築を加へ、義龍龍興の三世に亘り威容を誇つたが、永祿十年、織田信長是を滅ぼして尾州清洲より移り住み、僧澤彦の進言に從ひ、山上に天守閣を築き、山下に邸館を營み、後近江安土城を築くまで約十年間是に居つた。慶長五年八月、徳川家康と石田三成の天下二分の大決戰に際し、城主織田秀信二十歳の若冠を以て石田方に加擔し、城兵六千五百を率ゐて竹ヶ鼻城の友軍杉浦五左衛門と相呼應したが、福島正則、加藤嘉明、京極高知、井伊直政、本多忠勝諸將の一萬六千、及び池田輝政、淺野幸長、山内一豐等の一萬八千に包圍されて大敗し、城主秀信は、生き殘りの家臣三十八名と共に遂に敵方に降つた。かくて興亡二十四代、四百一年に亘る岐阜城の樓閣は金華山上から永遠に其姿を沒し去つたのである。現在の模擬城は明治四十二年、本丸跡に築かれたもの。寫眞は卽ち金華山の全景と、左上はその麓を流るる鵜飼に名高き長良川の景觀である。

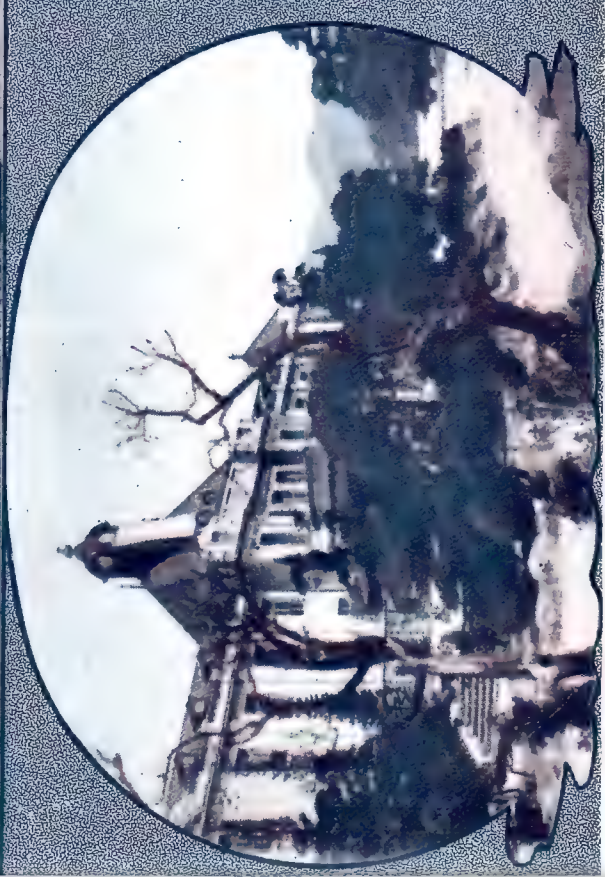
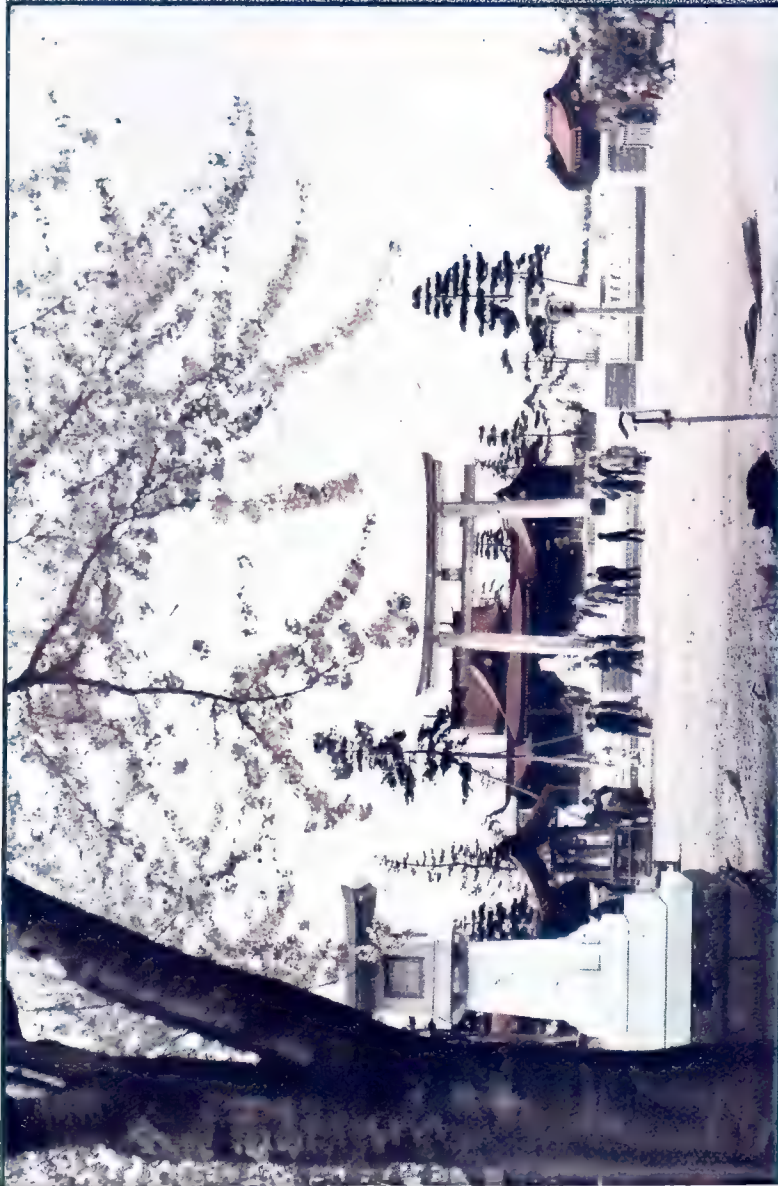
月岡芳年傑作 ◇本朝勇武三十六撰◇ (其二十五)『板額女』

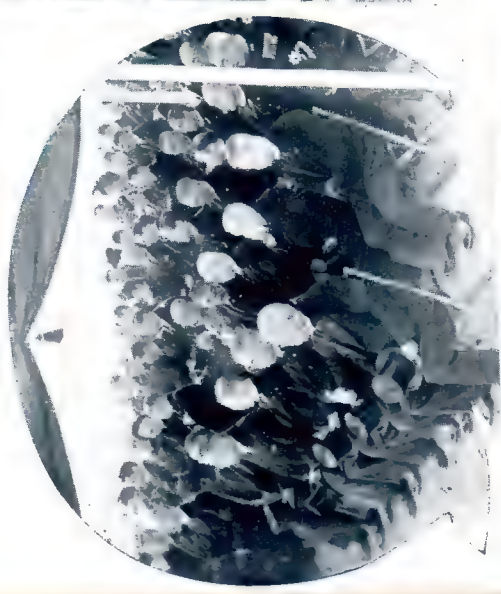
二千六百年奉祝會いろいろ

十一月十日、十一日と二日續きに擧行せられた紀元二千六百年記念の盛典は、兩日共、一天拭ふが如くに晴れわたり、金風そぞろ都大路をふきかよひて滿都は正に慶祝と歡喜の表情に笑みほころび、旗行列や神輿舁ぎに老も若きも我を忘れて祝ひ興じ、夜に入つては又提灯行列の火の海に、宮城前を中心としてその壯觀言語に絕するものがあつた。寫眞の（御右）十一日の朝、學習院初等科の校庭に於て催ふされた奉祝國民歌合唱に御參加あらせ給はんとする皇太子殿下。（左上）その夜宮城前を埋めたる提灯行列に對し畏くも二重橋の橋上より御應へ遊ばさるゝ御有樣。（左下）奉祝會の翌日、旗行列も交つて式典場を拜觀する市民

◆◆◆四國八十八箇所順禮集印◆◆◆ （第六十一番靈場）香　園　寺

『後の世を恐るる人は香園寺とめてとまらぬ白瀧の水』

是は四國八十八箇所第六十一番の札所、愛媛縣周桑郡小松町南川に在る香園寺の御詠歌である。寺は栴檀山教王院と號して眞言宗に屬し、聖德太子の草創と傳へられ、第三十一代用明天皇の勅願所であつたと謂はれてゐる。本尊大日如來は弘法大師の作で、栴檀の名木を以て彫刻した靈像である。又山内の子安弘法大師像は、大師巡錫の砌り、當山の麓にて難産の女人を救ひ、玉の如き男子を出生せしめ、それより當山に於て安産、子育、女人成佛、身替りの四大誓願を起し秘法を傳へたといふので、此の像を安置し、子女の守り佛としたのである。當山は規模の廣大なる四國第一と稱せられ、殊に春季には順拜者踵を接し、毎日數百名の人々が此寺内に一泊の善根を受くるので、寺院の常員だけでも百餘名に達してゐる。寫眞は寺の全景と三個の朱印、及び左は子安弘法大師像である。

◆◆◆ 紋章入全國都市巡覽 ◆◆◆ （其六十一） 山形市

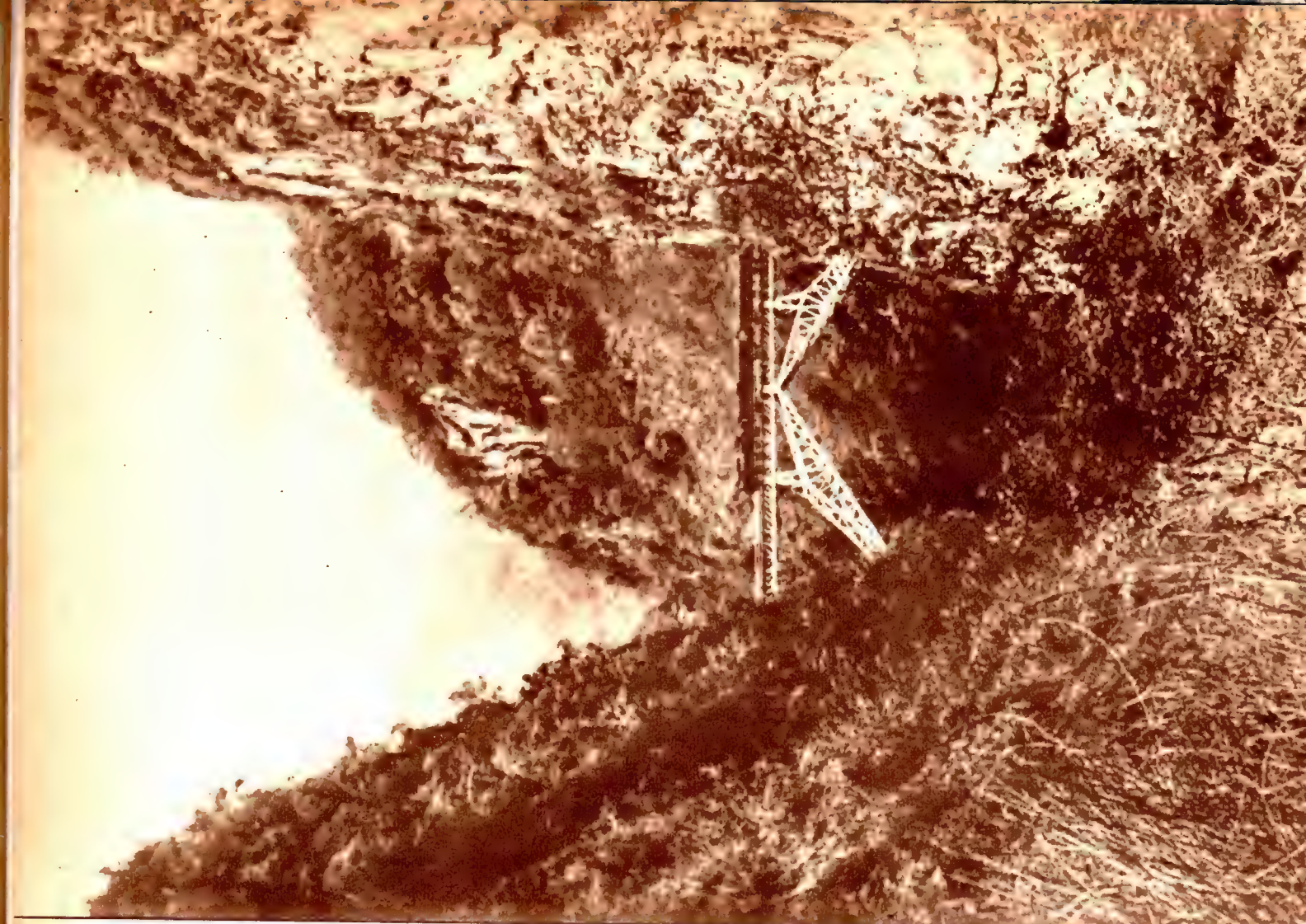
山形市は山形縣村山平野の東南部にあり、藏王、月山等の名山に圍繞されて榮えてきた都市である。遠く天平年中、陸奧鎭守府將軍大野東人征東の途次築城して以來、武家興亡のたび毎に、藩主を送迎し、水野家を最後として明治維新に至り、同二十二年市政を施行した。市は、近在農村、及び市内の官公衙、會社員等を顧客とする物資集散の都市で、仙西西線、左澤線の起點であり、鐵工業が最近の軍需景氣を見せ、各種木製品や織物の産地でもある。人口約八萬、東北第一を誇る鐵筋三層の第七、第八小學校を始め、近年は又、馬見橋の竣工、護國神社の造營、主要道路の鋪裝等に依て、大にその面目を一新した。寫眞の（**右上**）は市の紋章（**左上**）は、護國神社境内の全景。（**右下**）は市内目抜街七日町の雪景。（**左下**）は山形縣廳である。

西園寺公國葬儀（二）

故從一位大勳位西園寺公望公の國葬儀は、內閣總理大臣近衞文麿公を葬儀委員長として十二月五日日比谷公園葬場に於て擧行せらるゝこととなり、當日午前七時外務省官邸正寢の間に於ける柩前祭に始まりやがて靈車は發引葬場に入り、午前九時嚴かなる式は開始せられて勅使、各皇族殿下の御拜禮に續き遺族、內外の大官其他の禮拜あり、更に一般市民の拜禮するもの五萬有餘に及び、偉德の故公の最後を飾るに極めて似あはしき盛觀を呈した。寫眞の（**右上**）は齋靈殿に到着せんとする靈柩車。（**下右**）沿道に靈車を送る學生。（**下中**）一般參拜者の入場。（**左上**）葬場に參列する各大臣及び顯官連。（**左下**）齋場殿に入る外國使臣連である。

◆◆◆ 齋戒沐浴 十二大社巡拜 ◆◆◆

（其一） 皇大神宮御手洗の清流

畏くも天照大神を奉齋しまつる伊勢皇大神宮、宇治橋を渡れば千古蓊鬱たる神苑である。みどりしたたる老松の趣き添ふる芝生の中に、磨ける如き玉砂利を敷きつめて塵一つない參道を進み、やがて一ノ鳥居をくぐれば、左に五十鈴川の清澄玉を溶したやうな流れが見える。參拜者は先づ此の淨流に手を洗ひ、口を漱いで心身を淸めるのである。此のあたり千歲の老柏古檜鬱然として天に聳え、蒼古幽邃、崇高森嚴の氣は身に迫つておのづから頭が下る。

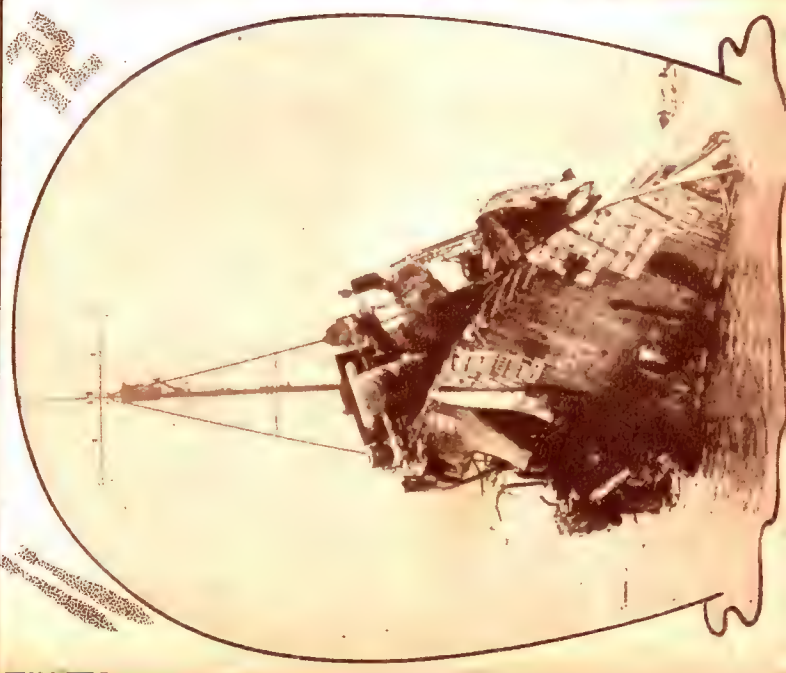
支那大陸各地ニュース

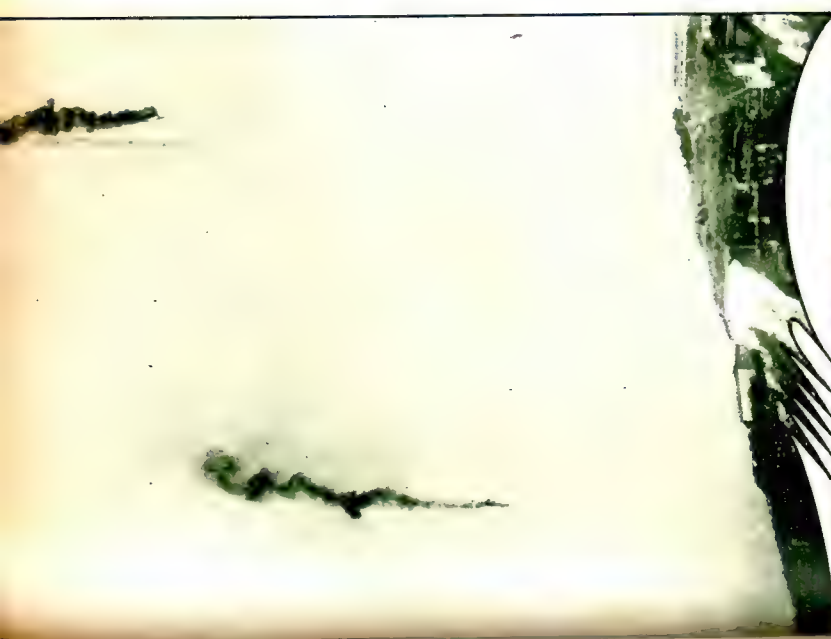
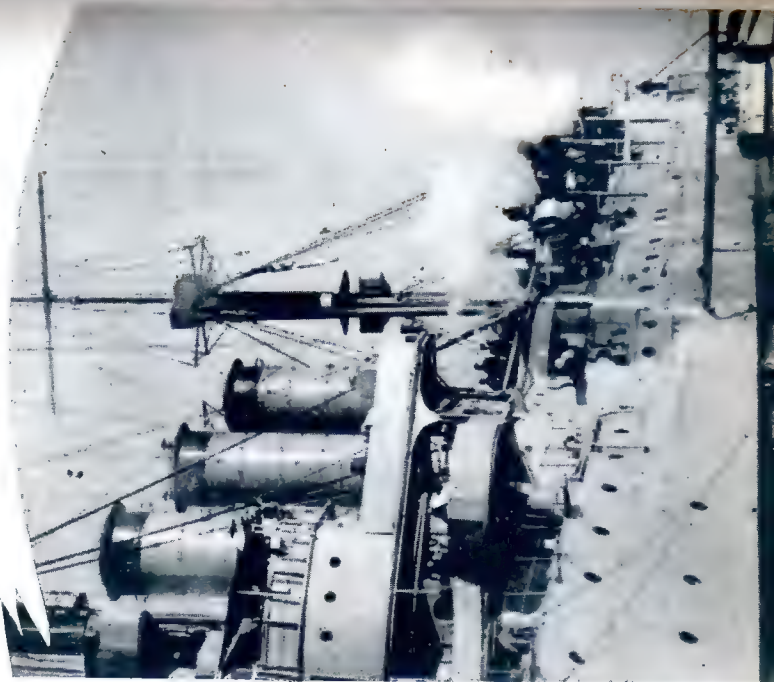
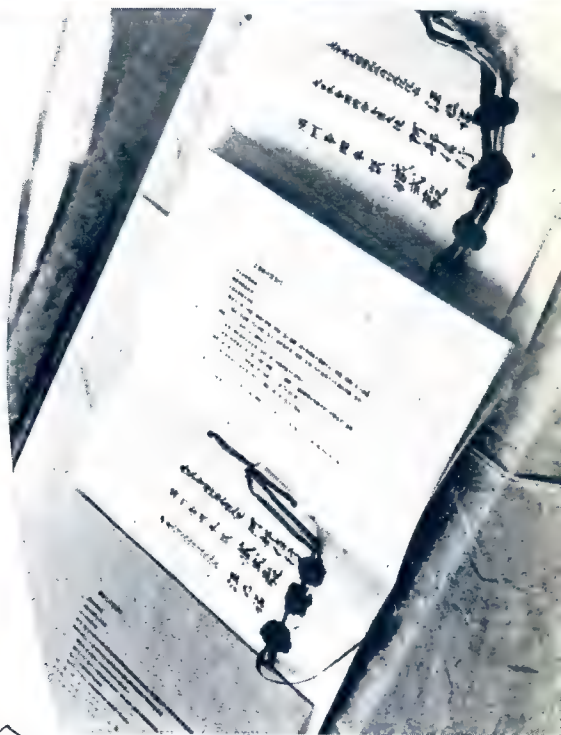
皇軍は今、山西省の共產軍殘黨を殲滅すると共に、漢水流域大別山脈方面に於ては李宗仁、湯恩伯麾下の諸軍を包圍し是に徹底的打擊を與へんとし、重慶方面に於ては、物資缺乏、士氣沮喪より抗日陣營の中にも和平渴望の聲、日を追ふて擴大されてゆく傾向がある。寫眞は大陸各地のニュースで、（右上）十一月十日、南京に於て擧行せられたる紀元二千六百年記念式典奉祝會の光景で、西尾總司令官の聖壽萬歲。（右下）奥地爆擊に向はんとする我が艦載機の偉容。（左上）アメリカ政府は在支米人の引揚方を通達した爲め、各地のアメリカ人は續々支那を引揚げてゐる。寫眞は十一月十六日秦皇島碼頭に於ける北支方面在住の米人引揚（軍報道部貸下）。（左下）佛印進駐の結果、南寧が既に戰略的價値を喪失した爲め、十月二十八日、我軍は同地を自主的に撤退した。寫眞は、南寧市外に於て古タイヤ其他を燒却する我軍

援蔣公路を徹底的に遮断す

我軍の佛印進駐以來、重慶側は此の方面よりする物資の供給全く杜絶して殆ど絶望狀態に陷つたが、**イギリス**政府の**ビルマ**公路再開と共に、一縷の光明を認めたるも束の間、我が荒鷲軍は、好機至れりとばかり、山嶽重疊する南支の空を翔破して矢繼早に援蔣公路の各心臟部を爆擊粉碎し、忽ちの內に是を遮斷すると共に重慶側をして茫然自失せしめ、遂にはその抗日陣營に和平要望の聲次第に高まるに至つた。寫眞の(右)**ビルマ・ルート**、四谷河溪谷に架かる**カンテイレバー**橋。(左上)千七百米の佛印**ハノイ**橋を渡る皇軍。(左下)十一月十一日の大戰記念日に、**ハノイ**の記念碑に參拜する右より澄田少將、**ドクー**總督、**マルタン**司令官である

…獨伊樞軸の陣營愈々堅し…

[illegible]案内に依りマヂノ線要塞の戰跡を視察する伯林駐在の日本武官。（右下）伊太利軍の爲めに完膚なきまでに撃滅されたエヂプト國境守備のイギリス駐屯軍が、無殘なる敗退直後の慘狀である。（左下）北海に於て獨逸空軍の爲めに發見せられ、猛烈なる爆撃を蒙りて壊滅したるイギリス軍隊輸送船團である

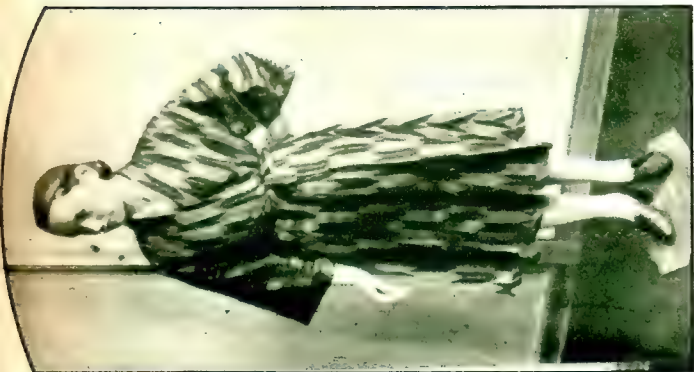
…イギリスの苦悶はつづく…

獨空軍の英本土爆撃は、殆ど連日の如く敢行せられ、**ロンドン**、**ドーヴァ**等の近距離地點のみならず、遠く**スコツトランド**の奥地までも獨爆彈は猛威を揮ひ、各種軍事施設や港灣工場等に甚大なる損害を與へてゐる寫眞の（**右上**）**スコツトランド**の、のどかな小麥畑もいつしか物々しい高射砲陣地と化した有樣。（**左上**）獨機に撃墜された**イギリス**の阻塞氣球。（**右下**）**ロンドン**、**カウンテイ・ホール**を見舞つた獨爆彈の威力。（**左下**）空襲解除の報に、**ホツ**として防空壕を出てくる**ロンドン**子達。

日支兩國基本新條約の正式調印

日支兩國間の國交を平常の狀態に復すると共に、此の兩國が經濟的にも政治的にも緊密に手を取りあひ、東亞新秩序の建設といふ大きな而も不動の形を確立せんが爲めに、曩頃來、阿部特命全權大使と汪精衞國民政府主席との間に樽俎折衝を行ひ、最近に至つて完全締結せられたる日支基本關係新條約の調印式は、十一月三十日午前十時より南京國民政府大禮堂に於て、彼我全權以下多數の代表隨員參列の上、いと嚴肅に擧行せられ、次で日滿支三國全權は日滿支共同宣言に調印を了し、是にて帝國政府は汪精衞氏を首班とする中華民國國民政府を正式に承認し、國民政府と滿洲國政府とも各々相互に承認して東亞に於ける事實上の三國同盟は成立を告げたのである。寫眞の(**右上**)最近の阿部全權大使。(**左上**)南京大禮堂に於ける歴史的調印式。(**下右**)調印式當日、我軍艦『出雲』の放つ祝砲。(**下中**)日滿支三國の共同宣言書。(**下左**)最近の汪精衞主席である。

最近時事小景

（上右）十一月二十七日、小林躋造大將の後を承けて臺灣總督に親任せられたる長谷川淸海軍大將。**（上中）バルカン**の雄**ルーマニア**國は、曩に日獨伊と締盟を約し、此のたび更に滿洲國を承認することとなつた。寫眞は十二月四日滿洲國大使館に於てその歡びに乾杯する左より**ルーマニア**代理公使、阮滿洲國大使。**（上左）**東京、京橋小學校に於て白衣の勇士を迎へて母の會が催ふされた。寫眞はその日の球入競技。**（中央）**畫壇の重鎭鹿子木孟郎畫伯は、このたび『南京入城圖』を揮毫して陸軍省に獻納した。寫眞は卽ちその大作。**（下右）**十一月二十三日九段軍人會館に於て擧行せられた大日本產業報國會創立總會當日、產業戰士の宮城行進。**（下中）**作曲家山田耕筰氏は半歲がかりで紀元二千六百年奉祝歌劇『夜明け』を完成した。寫眞は山田氏指揮の下に、藤原義江、辻輝子の諸氏が舞臺そのままの扮裝で、**コロムビア・レコード**吹込みの光景である。**（下左）**十一月二十七日、海軍大將野村吉三郞氏は、米國駐劄大使に親任された。

國民生活の新體制

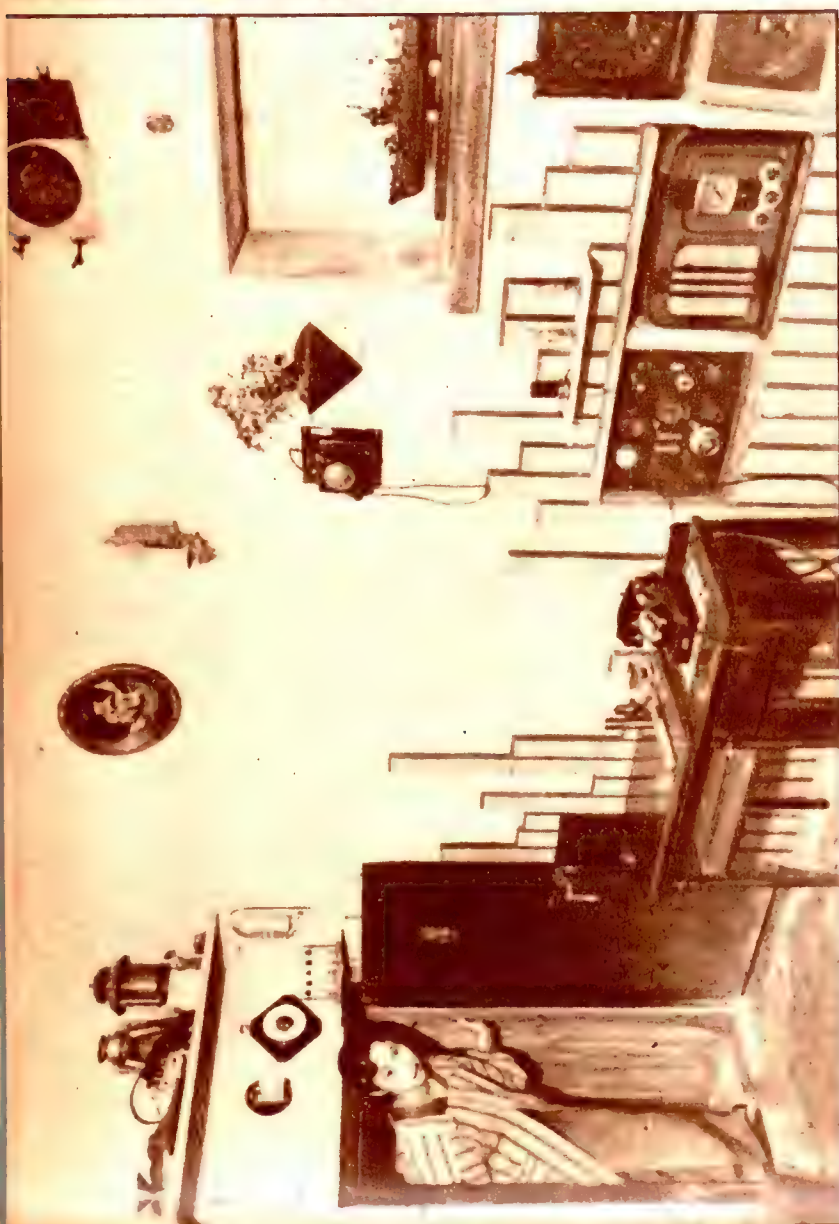
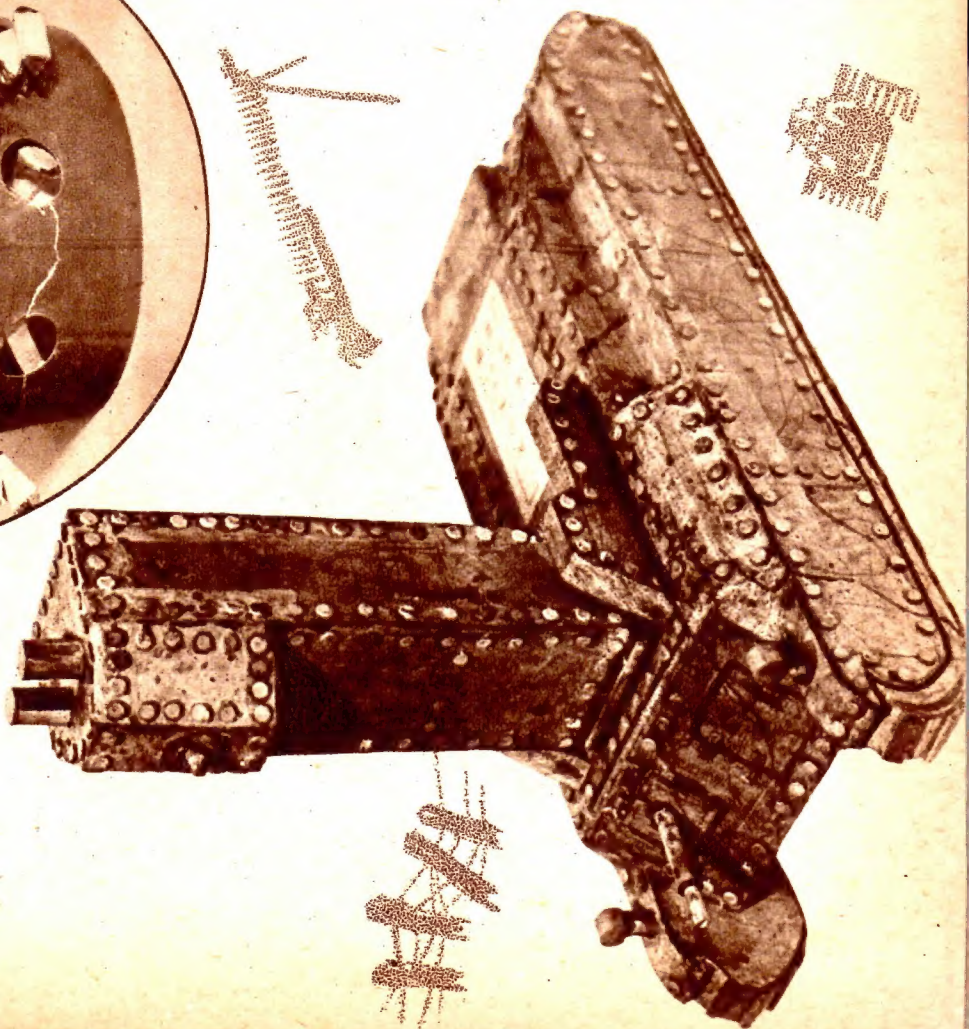
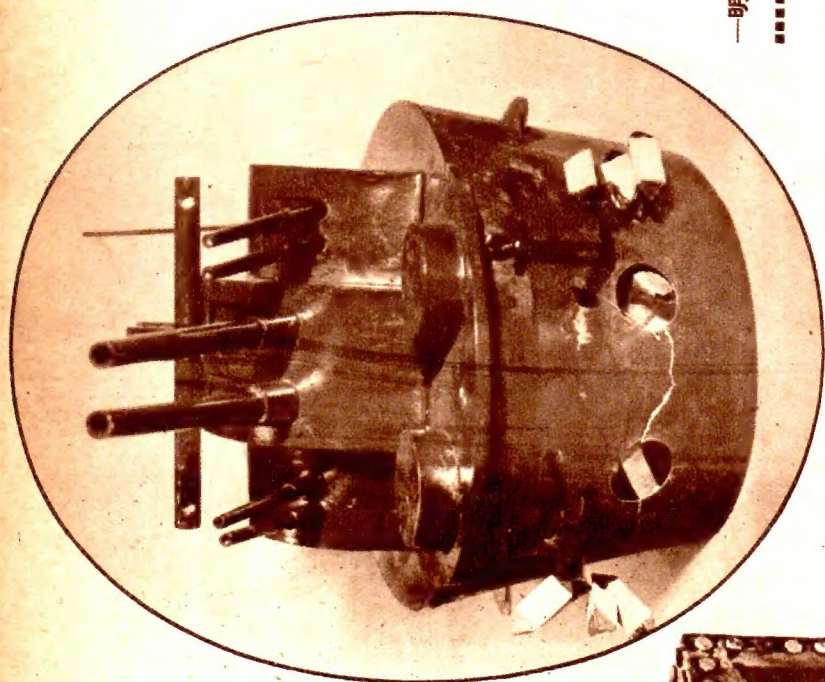
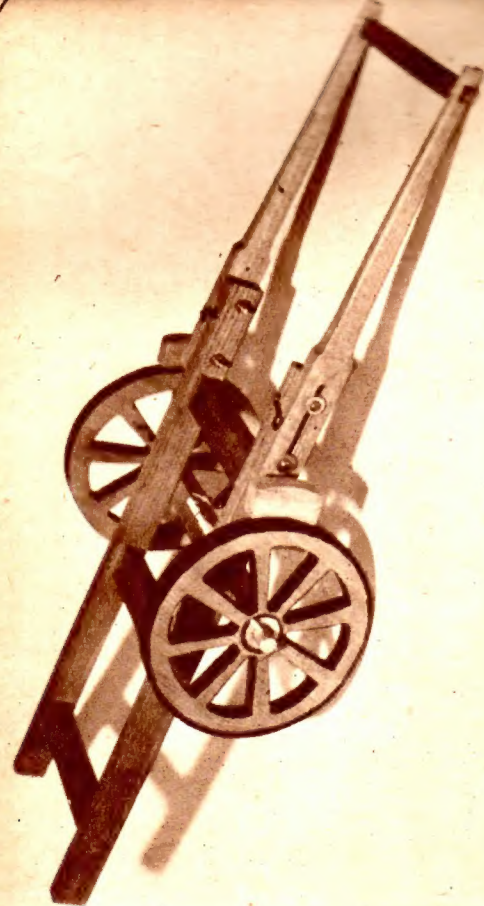
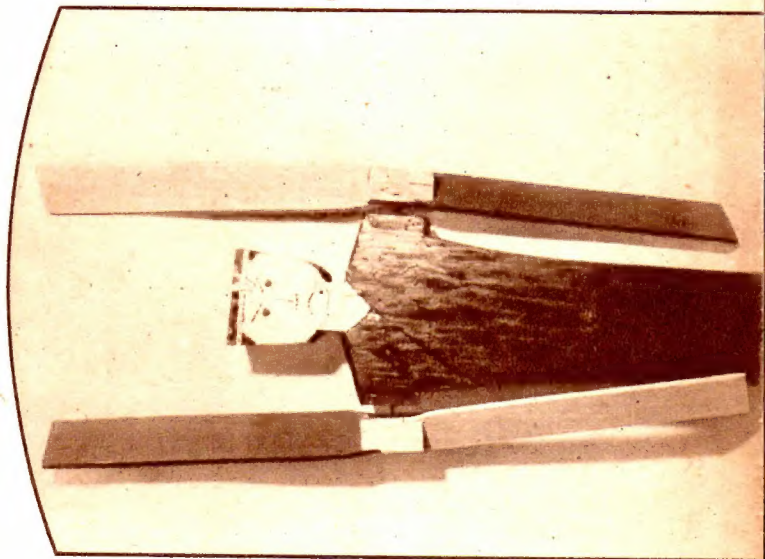
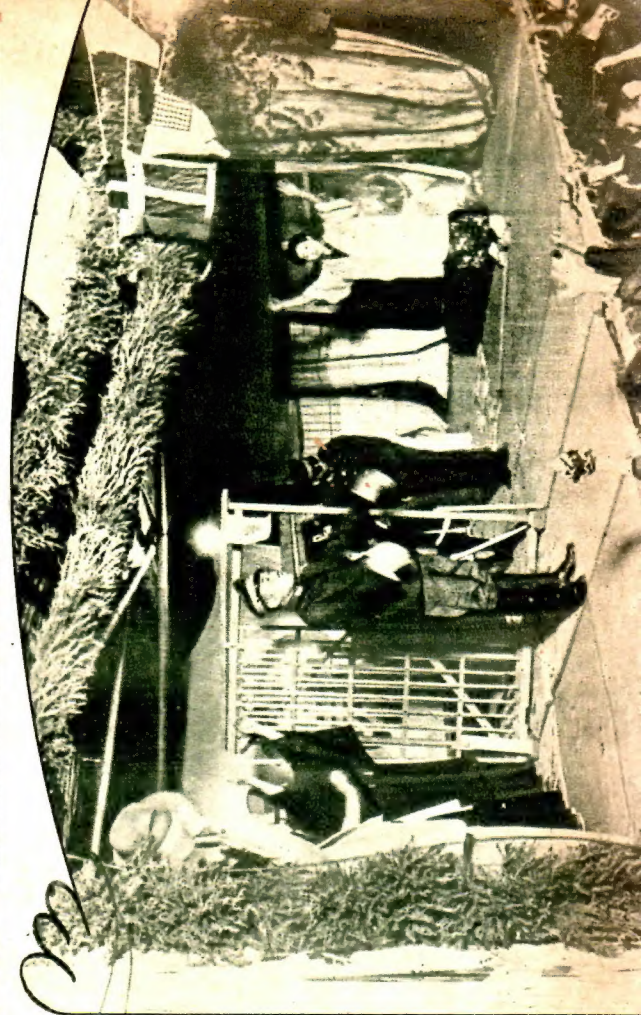
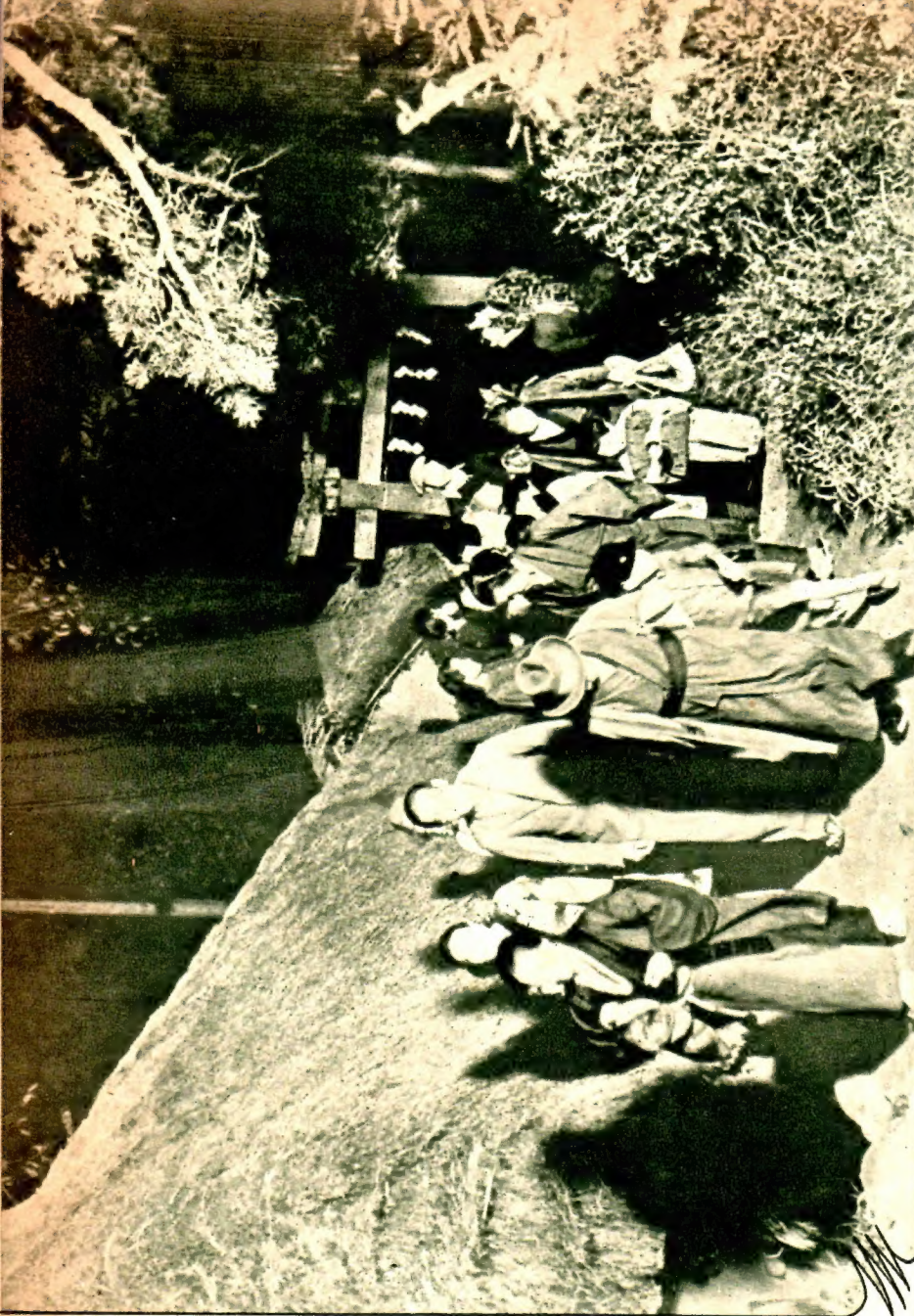
―先づ服装の改善―

一億一心の大精神を徹底的に打固める爲めには、先づ國民の服装容儀からして統一齊整しなければならぬ。そこで男子の國民服は既に勅令を以て法制化され、甲號乙號の二種が決定してゐる。女子の國民服は今尚は各方面に於て研究中であるが、その第一歩として、東京の代表的洋裁家が夫々苦心研究した試案製作品を十一月十二日から銀座松坂屋樓上に持寄り一般に公開した。生地は國産纖維の銘仙類を多く用ひ、裏を付けて中に綿を入れたもの、下着を重ねて着用するもの等、孰れも和服のもつ優美さに洋装の簡易輕快さを取入れてある。寫眞の**（右）**は三つ揃**スーツ**で**コート**と**ベルト**と**スカート**の三つが一反の銘仙で出來上り、防寒用として、全部芯布を入れ眞綿を引いてある。**（右上）**は家庭勞働着の上に上衣を着た姿。**（中上）**防空、防寒、登山等に用ひる興亞服。**（左上）**日本古代服と支那服の折衷。**（下右）**家庭勞働着。**（下中）**男子國民服の甲號を禮装に用ひる場合。**（下左）**大に自肅した七五三の新體制風景である

國民生活の新體制

―理想的防空壕―

高度國防國家の建設と共に、國民全般がしばらくも忽せに出來ないのは日常生活のあらゆる部面に亘る戰時體制の心構へである。近代戰に於ける慘禍の最も著しきもの即ちかの怖るべき〃空爆〃から完全に逃避する施設も亦、今や吾人に與へられた重大なる任務の一つとなつてきた。寫眞は東京杉並區下高井戸の千葉三郎治氏邸内に出來上つた鐵筋**コンクリート**、**タイル**張の豪華な防空壕で、外觀は風雅な築山といつた感じ、入口の鐵扉を開いて石の階段を下れば更に今一つ扉があつて防空室がある。防毒通風裝置も本格的なら、電話**ラヂオ**、毒**ガス**檢知器、空氣濾過器、**オゾン**發生器、醫療器具から炊事道具まで整へられ、たとへ停電しても夜光塗料で物の置場が判るといふ洵に至れり盡せりの設備である。寫眞の（**右上**）は入口、（**左上**）は內部、（**右下**）は聽音器で外の樣子を知る。（**左下**）炊事場

國民生活の新體制

—兒童の發明—

大東亞共榮圏の盟主として世界に雄飛する我が日本が、あらゆることで今尙は外國依存の迷夢から醒め切らないでゐるやうなことがあつては、大なる國恥であるといふので、自主的機械工業の發達促進が、八釜敷く叫ばれ武器を始めいろ〳〵なものの新しき發明が頻りに要望せられてきた。玆に掲げた寫眞は、最近東京府立商工奬勵館に開催せられた全國兒童發明創案展覽會の優秀品。（上右）は恩賜賞を獲た荷車の自動ブレーキ裝置で兵庫縣伊丹中學三年生龜山昌也君案。（上左）港灣河川の防禦を任務とする浮ぶトーチカで、潜航、沈壓、航行自由で、水雷發射管、無線電信を備へてゐる。岡山縣津山小學六年生後藤田逸雨君案。（下右）恩賜賞を獲た改良紙筒、市立小石川工業學校生徒岡野慶一君案。（下中）風が吹くと兩手が廻轉して音を發する改良案山子で、兵庫縣小野中學校五年生岩本康公君案。（下左）新型の戰車で、東京新堀小學六年生大島和男君案である

國民生活の新體制

―農村演劇隊―

新體制下、勤勞大衆の健全娛樂の問題が取上げられ、特に農山漁村や工場の人々に新鮮な慰安を與ふる爲め移動娛樂機關の必要が論ぜられてきたのは近頃愉快なニュースである。是は慰安を與へると同時に休養面の厚生的利用で、勤勞者の生活を安靜なものにし疲勞を回復せしめて新しい精力で明日に進み、且又相互の親睦と文化的向上を圖らうといふ歡びを通じての力行運動で、最近是が具體化の爲めに各興行會社の移動劇團も既に動きを見せ、農山漁村の間からも自發的に此種の運動が芽生へやうとしてゐる。寫眞は山梨縣大宮村に生れた農村演劇隊の公演で、（右上）は鎭守様の境内に集る村の人々。（左上）野外劇場の舞臺と觀衆。（右下）舞臺の萬歲に呼應して觀衆も總立ちとなり萬歲を叫ぶ。（左下）賑かな樂屋風景

◇◇漁村の曙◇◇

世界日誌

自昭和十五年十一月六日
至昭和十五年十二月五日

◇十一月◇

(六日) 昨五日全米國に擧行せられたる大統領選擧に於て、現大統領國民黨のルーズヴエルト氏は、共和黨の候補ウイルキイ氏と對立して激戰を交へたる結果、ルーズヴエルト氏は、又々壓倒的大差を以て遂に同國大統領に連續三選するの光榮を擔ひたり。

(七日) 愛蘭首相デ・ヴアレラ氏は、エール政府は飽まで自國の防衞と權益擁護に盡力するものにして、過般英國チヤーチル首相の下院に於て演說せるが如き英國に海港を海軍基地として提供する等は斷じて爲し能はざるところなりと表明したり。

(八日) 米國大統領ルーズヴエルト氏は、米國は〃空の要塞〃と稱せらるる大型重爆機及び戰鬪機其他の武器を約五十パーセント丈け、英國及びカナダの空軍に提供する旨發表したり。

(九日) ソ聯外務人民委員モロトフ氏は、獨伊樞軸のバルカン近東方面に對する積極工作に對處して、獨逸當局と緊急會談を行ふ爲め、愈々近くベルリンを訪問することに決したりと報ぜらる。

(十日) 悠久二千六百年、世界に比なき國體の精華を慶び謳ふ記念式典は、本日宮城前廣場に設けられたる式場に於て擧行せらるることとなり、畏くも天皇皇后兩陛下臨御あらせられ、各皇族殿下を始め奉り、內外文武の顯官其他全國より選ばれたる各功勞者、各代表者等五萬二千餘是に參列し、近衞首相恭しく御前に參進して壽詞を奏上すれば、天皇陛下には優渥なる勅語を賜らせられ、首相の發聲に依て參列諸員一同聖壽萬歲を高唱し、全國津々浦々亦、無上の歡喜にどよめき、歷史に刻むけふの喜びは、折柄輝く秋陽と共に普く天下に滿ちわたりたり。

(十一日) 昨十日の紀元二千六百年奉祝式典に引續き、その奉祝會は、同じく宮城前の會場に於て擧行せられ、畏くも天皇皇后兩陛下には、午後一時五十分、親しく是に臨御遊ばされ、各皇族殿下を始め五萬數千の參列諸員と共に、聖紀頌讃の玉杯を擧げさせ給ひ、一億臣民亦寶祚の彌榮を高唱して、歡喜の限りを盡したり。

(十二日) 本日アメリカ東部地方に於て、殆ど時を同じうして三大軍需工場の爆發事件突發し、米國聯邦調査局は原因究明の爲め俄然活動を開始したり。

(十三日) 本日午後二時より支那事變關係問題に關し、宮中に於て天皇陛下親臨の下に御前會議開催せられ、愼重審議の結果完全に意見の一致を見、午後四時十五分終了したり。

(十四日) 佛印に對する皇軍の平和進駐の結果、南寧、欽縣等の南支據點確保の目的は今や全く失はるるに至りたる爲め、我軍は先頭既に自主的に南寧を撤退したるが、更に昨十三日欽縣を撤し、以て該方面の兵力を他に轉用することとなりたる旨、本日大本營陸軍部より發表せられたり。

(十五日) 前海軍大臣吉田善吾中將、帝國聯合艦隊司令長官山本五十六中將、支那方面艦隊司令長官島田繁太郎中將は、本日夫々海軍大將に親任せられたり。

(十六日) 獨逸空軍のロンドン爆擊は、最近又々熾烈化し、昨十五日夜より、今朝未明にかけ、ロンドン上空には約五百機の獨爆擊機來襲して、數千噸の高爆發性爆彈及び燒夷彈を投下し死傷者莫大の數に上りたりと傳へられ、又十五日夜コヴエントリ地區工業地帶の爆擊に於ては約一千名の死者を出したりと報ぜらる。

(十七日) 英米兩國の對タイ策動は最近著しく露骨且つ脅迫的態度に變り、兩國とタイ國との間に軍事的及び經濟的提携を畫策し、タイ、英、米三國防衞の軍事密約締結の諒解既に成立したりと觀測せらる。

(十八日) 本日イタリヤ首相ムツソリーニ氏は、ローマのヴエネチヤ宮に於て演說を試み、イタリヤは對英戰に備へて今日既に百萬の軍隊を動員したるが、更に必要とあらば、八百萬を動員し得るものなりと述べたり。

(十九日) リツベントロツプ獨外相、チアノ伊外相、テレギーハンガリイ首相並に外相と是に我が來栖駐獨大使を加へたる日、獨、伊、洪四國代表は、本日ウインに於て歷史的重大會議を行ひたり。

(二十日) ハンガリー國は、愈々日獨伊三國の世界新秩序建設の政策に共鳴し、右同盟に參加することとなり、同國代表チヤーキー外相は、本日ウインに於て三國代表との間に、議定書に正式調印を行ひたり。

(廿一日) イタリヤ軍司令部の發表に依れば、同軍は本日シシリイ島に不時着したる一英軍機に搭乘のイギリス新近東空軍司令官オウエン・ボイト中將以下六名の將士を捕虜としたりと。

(廿二日) 去る十日頃より興津坐漁莊に於て腎盂炎を病み療養中なりし元老西園寺公望公は、何分にも高齡の爲め衰弱日と共に加はり、恢復到底覺束なかるべしと憂慮せらるるに至りたり。

(廿三日) ルーマニア國は、ハンガリーに次で日獨伊三國同盟に參加することとなり、本日右四國代表ベルリンに集り、議定書に正式調印を行ひたり。

(廿四日) 正二位大勳位公爵西園寺公望氏は、療養の甲斐なく本日午後九時五十四分、興津坐漁莊に於て終に薨去したり、享年九十二なり。

(廿五日) 畏くも天皇陛下に於かせられては、帝國唯一の元老西園寺公望公薨去の趣き聞召され、深くも御修悼あらせられ、公が生前國家に盡し來りたる勳功を嘉せられ、特旨を以て從一位宣下の御沙汰あり、特に國葬の禮を賜ふ旨仰せ出されたり。

(廿六日) 皇軍部隊は、最近中支漢水東西地區に蠢動しつつある有力なる敵部隊に對し、俄然殲滅戰を展開することとなり、我が各部隊は神速巧妙なる奇襲作戰を以て敵を全く包圍し、今や一擧にして是を潰滅せんとしつつあり。

(廿七日) 海軍大將長谷川淸氏は、小林躋造大將辭任の後を承けて臺灣總督に、又海軍大將野村吉三郎氏は、米國駐劄大使に本日夫々親任せられたり。

(廿八日) 唯だ一人の元老として、一億國民に敬慕せられたる故西園寺公望公の遺骸は、本日午前十一時十五分興津發特別靈柩列車に依り、七百萬市民悲しみの裡に喪の歸京をなすこととなり、午後二時三十五分東京驛安着、靈柩自動車に移されて、外務省官邸に安置せられたり。

(廿九日) 帝國議會開設滿五十年記念式典は、本日午前十時二十四分より帝國議事堂に於て擧行せられ、畏くも天皇陛下親臨遊ばされ、優渥なる勅語を賜らせ給ひたり。

(三十日) 日支基本條約並に附屬議定書の調印式は、本日午前十時二十五分南京なる國民政府大禮堂に於て、我が阿部信行特命全權大使と汪精衞國民政府行政院長との間に、いとも嚴肅に擧行せられ、次で、午後零時十分、同所に於て日滿華共同宣言に三國全權委員の署名調印を了したり。

◇十二月◇

(一日) 日滿支三國共同宣言の調印に依り、滿支特に北支と滿洲國との政治經濟關係は今後益々緊密化するに至りたる爲、滿洲國は來春愈々南京に大使館を開設することとなりたり。

(二日) 陸軍十二月定期異動は本日を以て發表せられ、陸軍少將李王垠殿下には陸軍中將に、陸軍大佐賀陽宮恒憲王殿下には陸軍少將に御進級あり、侍從武官長陸軍中將蓮沼蕃氏は現職の儘陸軍大將に進み、濱本喜三郎中將は新設北部軍司令官に、本間雅晴中將は臺灣軍司令官に夫々親補せられたり。

(三日) 畏くも皇后陛下に於かせられては、女子教育御奬勵の有難き御思召を以て、本日東京女子高等師範學校に行啓遊ばされ、附屬幼稚園、同小學校、同高等女學校及び本校の授業、實驗、實習等を親しく御巡覽あらせられたり。

(四日) 本日滿洲國政府の發表に依れば、ルーマニア國政府は十二月一日を以て滿洲國を承認し、同三日フロンドール駐日代理公使より阮駐日滿洲國大使を通じて通報し來りたりと。

(五日) 故從一位大勳位西園寺公望公の國葬儀は、本日午前七時、外相官邸正寢の間に於ける柩前祭の儀に始まり、同八時三十分靈車發引、日比谷公園內葬場に入り、嚴かなる葬場の儀が執行はれ、靈車は世田谷區若林町の西園寺家墓所に到着、かくて故公の遺骸は永遠に安息の地に歛まれり。

定價 郵 金六拾錢（送料共）

歷史寫眞第三百三十二號（毎月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和十五年十二月二十五日印刷納本
昭和十六年一月一日發行

編輯兼發行人 東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一二三〇 多田鐵雄
印刷人 東京市小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社
發行所 東京市神田區鎌倉町八番地ノ二 歷史寫眞會
本取扱所

（電話神田六五五七）（振替東京三四八二九）